

# 利尿剤

# βブロッカー SGLT2阻害剤

総務省の調べによると、7月3日までの1週間で熱中症による救急搬送数は全国で2918人。前年同期の540人の5倍超となり、早くも熱中症シーズンに突入だ。熱中症は脱水症状により体内に熱がこもり、体温の急上昇に伴って多臓器不全となり、最悪死ぬこともある怖い病気だ。水分の調節がしづらい乳幼児や高齢者がありやすいといわれるが、薬を飲んでる病気持ちの中年も要注意。どんな病気と薬がヤバイのか？

「高血圧や心臓が弱い人で、利尿剤を飲んでいれば熱中症にとても気を配らなくてはなりません」  
こう言うのは北品川藤クリニック(東京・

## 救急搬送は昨年の5倍以上

北品川)の石原藤樹院長(うではない)。長た。高血圧や心臓病「患者さんの多くは、と熱中症とは、一見、普段から医師に減塩をとうとして血液量が増ります」(石原院長) 彼らは普段から、脱水無関係に思えるが、そ 指示されています。塩 え、結果的に末梢血管

分を取り過ぎると、血 ちろん、血液量が増え 分を抜いて血液量を減 ります」(石原院長) これら

の壁面に圧力め、高血圧や心臓の弱 がかり、血 い人は塩分を控えるだ 圧が高くなる けでなく、利尿剤を飲 からです。も む。血液からさらに水 分を抜いて血液量を減 らすためだ。つまり、 状態」にあるのだ。

るまで気付きません」(辛院長) ほかにも注意すべき 病気の多い。薬剤 師の青島周一氏が言 う。 「風邪で熱があった り、下痢で脱水状態に ある場合は熱中症には 気をつけましょう。と 液中の余分な糖分を尿 くと「抗コリン作用」 と一緒に排出させるこ のある薬は、使う際は 気をつけなければなり せ、脱水症状を起こし ません。発汗作用を抑 やすいのです」(辛院 長)

# 熱中症を招きやすい 病気と薬

こんな人が炎天下の 脈拍を上昇させない働 野外や蒸し暑い室内な きがあり、脈拍が速い ても熱中症の危険性が どのにれば、短時間で タイプの高血圧や心臓 高いのは糖尿病を患っ 熱中症になるのは当然 病、急に脈拍が速くな ている人だ。糖尿病専 だ。腎臓が弱く、利尿 する不整脈の人を対象と 門医で「しんクリニッ 剤を飲んでる人も同 じた。 飲んでいると脈拍を上 の辛浩基院長が言う。 「利尿剤ではなく『β ぶロッカー』という薬 できて、熱中症になり が必要で。この薬は 院長)

「神経障害で暑さを感じ 題が生じているケース が少なくありません。 度調節がうまくいか たらだええ、糖尿病の ず、暑さも感じにくけ れて汗をかき機能が問 人は多飲多尿で、脱水



「話題の新薬『SGL T2阻害剤』はとくに 気をつけましょう。血 液の余分な糖分を尿 くと「抗コリン作用」 と一緒に排出させるこ のある薬は、使う際は 気をつけなければなり せ、脱水症状を起こし ません。発汗作用を抑 やすいのです」(辛院 長) ちなみに熱中症対策 やせき止めのほか、鼻 炎薬や胃腸薬、睡眠補 助剤、酔い止め薬など っているが、糖尿病の人 に使われています。体 温調節機能をつかさど る自律神経に影響する 00多につき、5〜10 の糖質が含まれてい ます。これをがぶ飲み すれば、今度は高血糖 て使っている人は、さ になり、糖尿病を進め らに熱中症発症のリス クが高くなる。健康を ることになりかねませ 薬で支えている中年に ールやカフェインが含 とって熱中症は身近な まれているコーヒーは 怖い病気だということ 避けて、水やお茶にす を知っておくべきだ。